

南地域まちづくり かわら版

南地域自治組織設立準備委員会では、各地区において、区会をはじめ各種団体の皆さんを対象に説明会や情報交換を行ってきました。

「なぜ今、地域自治組織の設立が必要なのか？」「地域自治組織と区会（行政区）の関係は？」というご質問を多くの皆さんよりいただきました

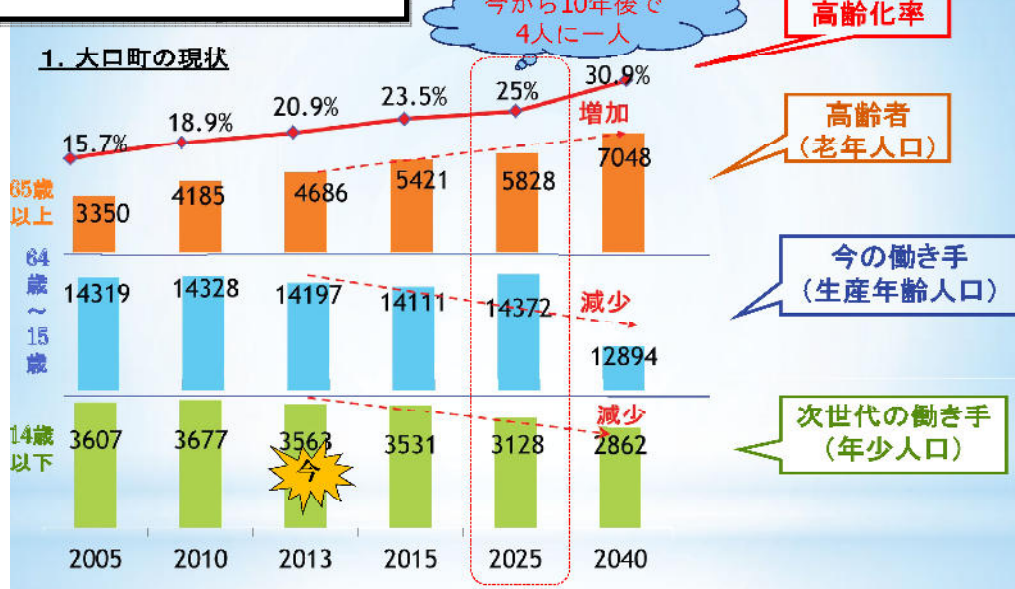
今号では、大口町の現状も踏まえ、お伝えします。

なぜ、今必要なのか？

自助の限界と公助の限界

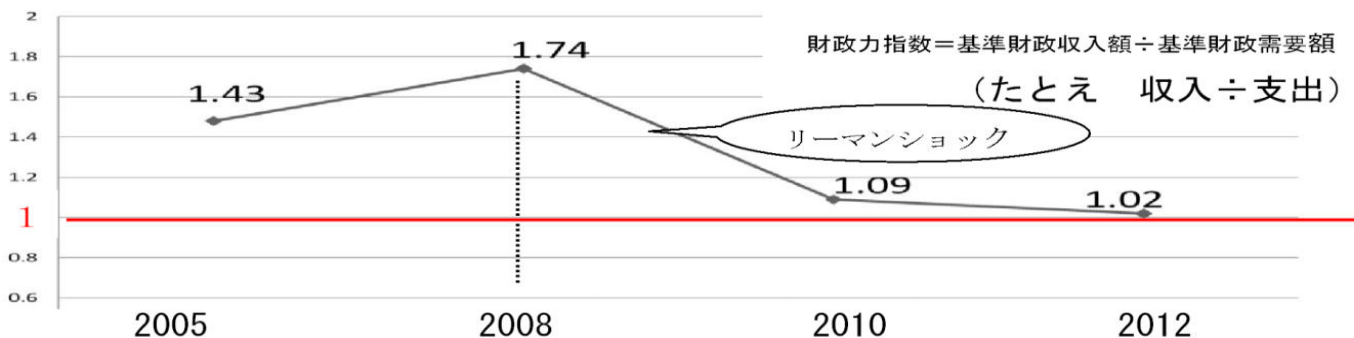
全国的に進んでいるといわれている少子高齢化は、大口町においても例外ではありません。約10年後の高齢化率は25%となり、4人に1人が高齢者となる時代がやってきます。

人口の推移と推計



核家族や高齢者世帯の増加により、高齢者が子どもたちに様々なことを伝える機会が減少します。また各家庭において、高齢者を支えることも困難になる等『家族の機能』が弱くなることも懸念されます。

財政力指数の推移



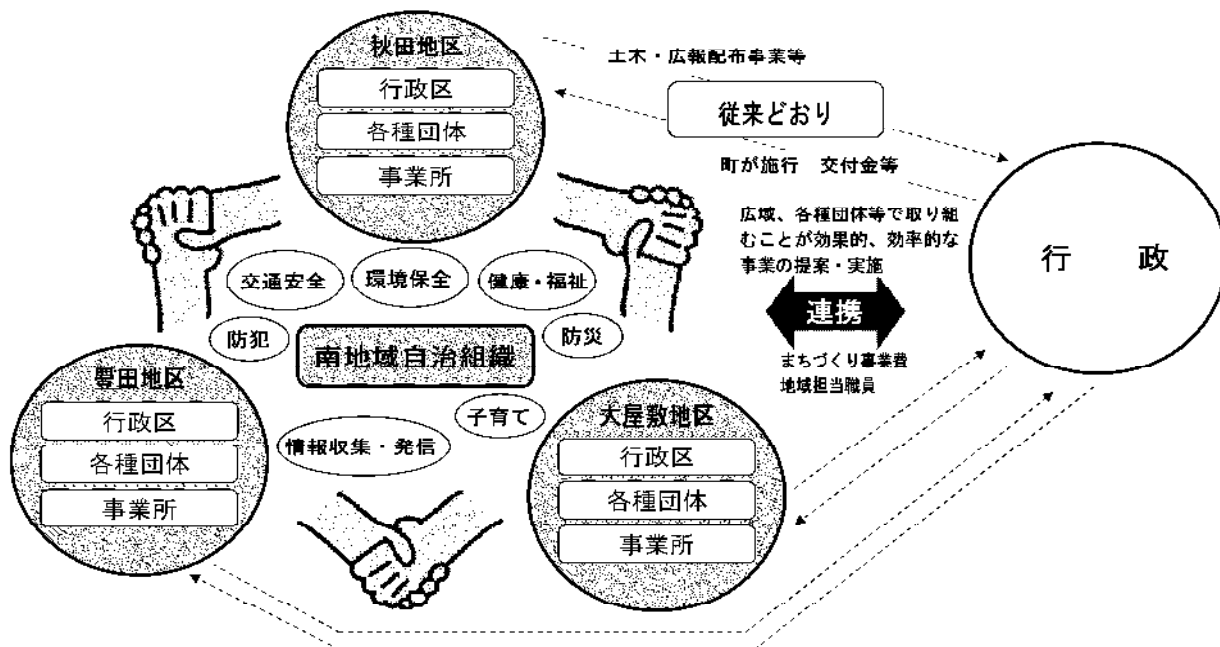
現在及び次世代の働き手となる生産年齢人口や年少人口の減少は、税収の減少とも大きく関連し、豊かであるといわれる大口町にも、支出が収入を上回る時代がやってくるかもしれません。

一方、少子高齢化の進展により、高齢者に対する社会保障費（医療費や介護サービス費など）が増加し、町の財源を圧迫することも予測されます。限りある財源の有効活用について、我々も行政と共に検討し、実行していきたいと考えています。

地域自治組織と行政区

共助のしくみづくり

地域自治組織と行政区は、共に「助け合える地域づくり」を目指す組織として、協力、補完、連携する関係となります。



地域自治組織は、地域に関わる多くの人々が話し合える場を設け、地域共通の課題解決を図るなど、効果的・効率的な活動を実施していきます。行政区は、従来の活動を行い、地域自治組織の中核を担います。

今後も進展すると思われる「住民力の低下（自助の限界）」や「財政力の低下（公助の限界）」に備え、「地域で助け合える絆（共助のしくみ）づくり」として、地域自治組織の立ち上げを目指しています。

10年、20年先も、現在と同じ“安全で安心できる住みよい地域”であり続けるために、余力のある今だからこそ、この取り組みが必要と考え、進めています。

引き続き、皆様のご理解、ご協力をお願いします。